

















































2. 適切な電圧設定（右に向かいます）に進むには、オン ボタン（3）を押します。選択された電圧設定LEDが点滅します。スタンバイ ボタン（2）を押すと選択された電圧設定が有効になります。これまで選択されていた設定パラメータLEDは消灯します。

**注:** 1つの定格商用電圧のみを設定できます。電圧設定パラメータの設定では、1つのパラメータを設定すると、残りの3つのパラメータは自動的に設定解除されます。

3. 配線チェック オプションを有効から無効に切り替えるには、オン ボタン（3）を押して配線チェックLEDに進み、次にスタンバイ ボタン（2）を押します。
4. 設定を確定し、設定モードを終了するには、テスト/アラーム リセット ボタン（1）を押します。

**注:** 装置を2分間放置しておくと、設定モードは時間切れになり、設定は保存されません。

---

## バッテリーのメンテナンス

この章では、バッテリーの充電、交換、廃棄手順、保証を含む、UPSのバッテリーの正しいメンテナンスの方法について説明します。

### 注意事項



**警告:** UPSの高電圧により感電の危険があります。バッテリーの保守および交換は、必ずHPのサービス窓口  
に依頼してください。



**警告:** このUPSには、密閉式の鉛蓄電池が入っています。発火や化学火傷を防止するために、次の注意事  
項を守ってください。

- UPSから取り外したバッテリーを再充電しないでください。
- バッテリーを分解したり、つぶしたり、穴を開けたりしないでください。
- バッテリーの外部端子をショートさせないでください。
- バッテリーを水に浸けないでください。
- 60 以上の高温にさらさないでください。



**警告:** 高電圧による感電を防止するために、次の注意事項を守ってください。

- 腕時計、指輪、またはその他の金属製の装身具を外してください。
  - 絶縁材でできた持ち手のある工具を使用してください。
- 

### バッテリーの充電

商用電源に接続されている場合、UPSは自動的にバッテリーに充電を行います。UPSの使用中は、ユーザ  
の操作は一切必要ありません。UPSを長期間にわたって保管する場合の充電維持の方法については、こ  
の章の「バッテリーの手入れと保管」を参照してください。



## バッテリー交換時期

不良バッテリー/ロー バッテリーLED (1) が赤で点灯した場合、30～60日以内にバッテリーを交換しなければならない可能性があります。

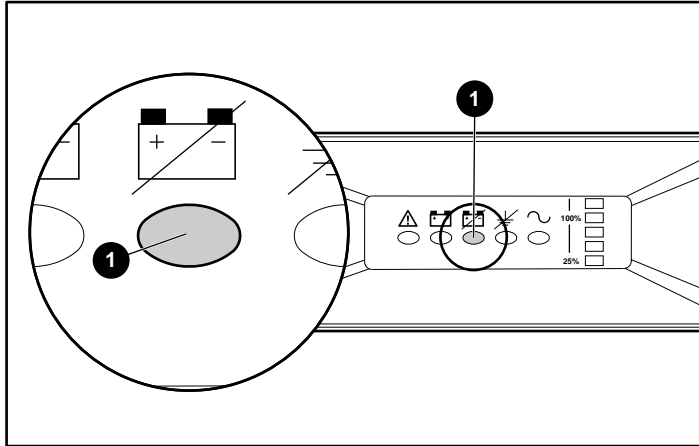


図4-1: 不良バッテリー/ロー バッテリーLED

バッテリー アラームを確認するには、UPSバッテリーのセルフテストを起動して、バッテリーの交換が必要かどうかを確認してください。不良バッテリー/ロー バッテリーLED (1) が赤で点灯したままの場合は、できるだけ早くバッテリーを交換してください。

注: 使用状況および環境条件によって異なりますが、バッテリーの寿命は3～6年です。

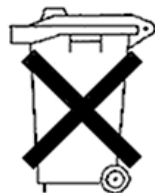
セルフテストの起動について詳しくは、第2章の「セルフテストの起動」の項を参照してください。

## バッテリーの交換

不良バッテリー/ロー バッテリーLEDが赤で点灯した場合は、30～60日以内に新しいバッテリーが必要になる可能性があります。このような状況が発生した場合は、HPのサービス窓口にお問い合わせの上、バッテリーの交換を行ってください。

## 使用済みバッテリーの廃棄

交換用バッテリー キットには、使用済みバッテリーを適切な廃棄場所に返却するための説明書と梱包材が含まれています。



使用済みバッテリーは、オフィスや家庭の廃棄物と一緒に捨てないでください。使用済みパックは、各地の環境規定を満たしている再利用施設に送って、適切に廃棄してください。

## バッテリーの手入れと保管

バッテリーの寿命を最大にするために、次の手順に従ってください。

- UPSの設定を商用電圧に合わせて、UPSがバッテリー電源を使用する時間を最小にしてください。詳細については、「3 設定」を参照してください。
- UPSの周辺は常に清潔にしておいてください。ほこりが多い場所では、掃除機を使ってUPSの周囲を定期的に掃除してください。
- 周囲温度は25℃に保ってください。
- 長期間UPSを保管する場合は、次の手順に従って、半年ごとにUPSを再充電してください。
  - a. UPSを商用電源に接続します。
  - b. UPSをスタンバイモードのままにします。
  - c. UPSが24時間バッテリーを充電するようにします。
  - d. バッテリー再充電日付ラベルを更新します。

## バッテリーの事前予防保証

すべてのHP UPSで標準となっているバッテリーの事前予防保証によって、HPの3年間保証は、バッテリー障害が実際に発生する前にも適用されます。特に、バッテリーの事前予防保証は、バッテリーに障害が発生する可能性があることをHPパワー マネジメント ソフトウェアがユーザに通知した時点で、バッテリーの無償交換を行います。

バッテリーの事前予防保証で実証されるように、HPは業界最高水準の保証を提供しています。HPのバッテリー事前予防保証には、少なくとも、次の2つの利点があります。

- TCO（維持管理費）の削減
- ダウン時間の減少

バッテリー障害の事前警告は、バッテリー障害の30日前に発生します。警告は次のいずれかの方法で行われます。

- ロー バッテリーを示すLED
- HPパワー マネジメント ソフトウェアからの通知

これらの警告が発生した時点では、交換用バッテリーを注文するために十分な時間があります。HPのWebサイト<http://www.hp.com/>（英語）で交換用バッテリーを注文できます。

バッテリーの保証は、3年間の部品保証です。最初の1年間保証は、部品保証と作業保証を含みます。HP UPSの特定のモデルで、交換用バッテリーが入手不可能な場合は、バッテリーを含むUPS全体の交換となります。

## トラブルシューティング

この章は、UPSに障害が発生した場合のトラブルシューティングについて説明します。起動中または起動後に発生するUPSの障害に対する対処方法が示されています。

### トラブルシューティング

UPSの起動中または使用中に問題が発生した場合は、考えられる原因と対処方法について、表5-1を参照してください。

表5-1: トラブルシューティング

症状	考えられる原因	処置
UPSが起動しない。	商用電源が供給されていない。	商用電源コンセントの電源のチェックをするか、HPのサービス窓口に連絡してください。
	UPSの電源コードが接続されていない。	電源コードを接続します。
アラーム音が鳴る。	アラーム条件が存在する。	このアラーム条件に関連する赤く点灯したLEDを確認します。トラブルシューティングガイドを調べて、アラームの原因を特定してください。
商用電源LED ( ~ ) が緑で点滅し、UPSのコンセントに電源が供給されていない。	UPSがスタンバイモードになっている。	オン ボタンを押して、接続されている装置に電源を供給してください。
商用電源LED ( ~ ) が緑と赤で交互に点灯し、一般アラームLED ( △ ) が赤く点滅する。	温度障害が発生している。UPS内部温度が高すぎる。	UPSの電源を切って電源プラグを抜き取ります。通気口周辺の障害物や熱源を取り除き、UPS周辺の通気が妨げられていないかを確認します。5分待った後でUPSを再起動してください。問題が解決しない場合は、HPのサービス窓口に連絡してください。
一般アラームLED ( △ ) が赤く点灯し、アラーム音が鳴る。	UPSの温度に問題がある。	HPのサービス窓口に連絡してください。

続く

表5-1: トラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	処置
商用電源LED (～) が赤く点灯する。	商用電源の入力電圧が正常範囲を超えており、UPSがBuckモードになっている。	処置は必要ありません。商用電源の入力電圧が正常範囲に復帰すると、UPSの動作も正常に戻ります。
商用電源LED (～) が赤く点滅した後、緑で点灯する。	商用電源の入力電圧が正常範囲以下になっており、UPSがSingle Boostモードになっている。	処置は必要ありません。商用電源の入力電圧が正常範囲に復帰すると、UPSの動作も正常に戻ります。
商用電源LED (～) が緑で点滅した後、赤く点灯する。	商用電源の入力電圧が正常範囲以下になっており、UPSがDouble Boostモードになっている。	処置は必要ありません。商用電源の入力電圧が正常範囲に復帰すると、UPSの動作も正常に戻ります。
商用電源LED (～) が赤く点灯し、バッテリー動作LED (⚡) が赤く点滅する。アラーム音が鳴る。	商用電源の入力電圧が、定格+20% ~ -30%の範囲を超えている。	この状態が長く続く場合は、商用電源の電圧レベルに合わせて設定を変更しなければならない可能性があります。UPSがバッテリーモードになっています。作業中のファイルを保存して、装置の電源を切る準備をしてください。  HPのサービス窓口に連絡して、商用電源がUPSに適合しているか確認を依頼してください。
商用電源 (～) LEDが緑で点灯し、一般アラームLED (△) が赤く点滅する。過負荷LEDが赤く点灯し、アラーム音が鳴る。	UPSはオンラインだが、過負荷状態にある。	負荷装置の電源を切ってから、UPSの電源を切ります。UPSに接続する負荷装置の数を減らしてから、UPS、負荷装置の順に再起動します。  負荷装置がUPSの容量を超えていない場合は、HPのサービス窓口に連絡してください。
商用電源LED (～) が緑で点灯し、一般アラームLED (△) 赤く点灯する。不良バッテリー/ローバッテリーLED (⚡) が赤く点滅する。	バッテリーの電圧が、セルフテストの基準に達していない。	UPSがバッテリーを24時間充電するようにします。セルフテストを起動します。LEDが点灯する場合は、バッテリーを交換してください。
商用電源LED (～) およびバッテリー動作LED (⚡) が赤く点滅する。	商用電圧が高すぎるまたは低すぎる。	商用電圧が、UPSの動作範囲よりも高く、または低くなっています。UPSはバッテリー電源に切り替えます。この問題が繰り返し発生する場合は、設定を変更してください。  HPのサービス窓口に連絡して、商用電源がUPSに適合しているか確認を依頼してください。
	商用電源の周波数が、許容範囲を超えている。	HPのサービス窓口に連絡して、商用電源がUPSに適合しているか確認を依頼してください。

続く

表5-1: トラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	処置
バッテリー動作LED (●) が赤く点灯し、アラーム音が鳴る。	UPSはバッテリー電源で動作している。	作業中のファイルを保存して、システムの電源を切る準備をしてください。
バッテリー動作LED (●) と一般アラームLED (△) が赤く点滅する。アラーム音が鳴る。	UPSはバッテリー電源で動作しており、出力電圧が仕様の範囲を超えている。	HPのサービス窓口に連絡してください。
バッテリー動作LED (●) が赤く点滅し、商用電源LED (～) が赤く点灯する。アラーム音が鳴る。	バッテリー電圧の低下。	UPSがバッテリー電源を供給している場合は、作業中のファイルを保存して、システムの電源を停止してください。バッテリーを充電してください。  UPSが商用電源を供給している場合は、何もする必要はありません。バッテリーを充電してください。
不良バッテリー/ローバッテリーLED (⊘) が赤く点滅する。	長期間UPSが使用されていないため、バッテリー電圧が低下している。  バッテリーが接続されていない。	UPSがバッテリーを24時間充電するようにします。セルフテストを起動します。不良バッテリー/ローバッテリーLEDが消灯しなければ、バッテリーを交換してください。  バッテリーパックを取り付けます。すでにバッテリーパックが取り付けられている場合は、一度パックを取り外してから再度挿入してください。
配線チェックインジケータ (✖) が赤く点滅する。	商用電源とUPSの間でアースが接続されていない、または商用電源コンセントでラインとニュートラルの接続が逆になっている。  UPSの電圧設定が正しくない。	HPのサービス窓口に連絡して、正しく配線しなおしてください。  設定を変更してください。
過負荷LEDが赤く点灯する。	保護されている装置が、UPSの電力定格を超えている。  UPSが商用電源からバッテリー電源に切り替わっている可能性がある。	1台以上の装置を切り離して、UPSの負荷を減らしてください。  装置に故障がないかどうか確認してください。
すべてのLEDが赤で点滅し、アラーム音が消せない。	UPS内部に障害状態が存在する。	UPSの電源を切ります。HPのサービス窓口に連絡してください。

続く

表5-1: トラブルシューティング (続き)

症状	考えられる原因	処置
UPSが商用電源とバッテリー電源を頻繁に切り替える。	商用電源の変動。	商用電圧が、頻繁にUPSの動作範囲外になっています。設定を更新してください。  HPのサービス窓口連絡して、商用電源がUPSに適合しているか確認を依頼してください。
ロー バッテリーの警告が短い。	バッテリーを修理する必要がある。  シャットダウン遅延時間の設定が不適切。	バッテリーを24時間充電した後で、セルフテストを実行します。不良バッテリー/ロー バッテリーLEDが赤く点灯する場合は、バッテリーを交換してください。  シャットダウン遅延時間を、5秒から3分に変更します。  HPパワー マネジメント ソフトウェアを使用して、適切な遅延時間を指定します。

## UPSの修理

UPSの修理は、HPのサービス窓口にご依頼してください。

## 規定に関するご注意

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

## 規定準拠識別番号

規定に準拠していることの証明と識別のために、製品には固有のシリーズ番号が割り当てられています。サーバのシリーズ番号は、すべての必要な認可マークおよび情報とともに、製品ラベルに印刷されています。この製品の準拠情報を請求する場合は、必ず、このシリーズ番号を参照してください。このシリーズ番号を、製品の製品名またはモデル番号と混同しないでください。

## 各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

### Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (for example, personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

The rating label on the device shows the classification (A or B) of the equipment. Class B devices have an FCC logo or FCC ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or FCC ID on the label. After the class of the device is determined, refer to the corresponding statement in the following sections.

## Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

## Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit that is different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

## Declaration of Conformity for Products Marked with the FCC Logo, United States Only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding your product, contact us by mail or telephone:

- Hewlett-Packard Company  
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113  
Houston, Texas 77269-2000
- 1-800-652-6672 (For continuous quality improvement, call may be recorded or monitored)

For questions regarding this FCC declaration, contact us by mail or telephone:

- Hewlett-Packard Company  
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101  
Houston, Texas 77269-2000
- 1-281-514-3333

To identify this product, refer to the part, series, or model number found on the product.

## Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Hewlett-Packard Company may void the user's authority to operate the equipment.



## Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

## Canadian Notice (Avis Canadien)

### Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

### Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

## European Union Notice

Products with the CE Marking comply with both the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community.

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in brackets are the equivalent international standards):

- EN50091-1 - UPS Product Safety Requirements
- EN50091-2 - UPS EMC Requirements

## China Taiwan Notice

### 警告使用者：

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

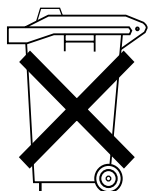
## バッテリーの取り扱いについてのご注意

UPSには、密封式の鉛蓄電池が装備されています。バッテリーの交換や取り扱いを誤ると、破裂の危険があり、人体に障害をおよぼす危険があります。バッテリーの交換は、HPのサービス窓口にご依頼してください。



**警告:** UPSには、密閉式の鉛蓄電池を内蔵しています。バッテリーの取り扱いを誤ると火災の危険があるので、次の点に注意してください。

- バッテリーを再充電しないでください。
  - 60 を越える場所にバッテリーを放置しないでください。
  - バッテリーを分解したり、つぶしたり、穴を開けたり、ショートさせたり、火や水の中に投げたりしないでください。
  - 交換用のバッテリーは、専用のものを使用してください。
- 



バッテリーやバッテリーパックは、家庭用ゴミとして捨てないでください。その地域の規定にしたがって、廃棄またはリサイクルしてください。

## 静電気対策

システムの損傷を防ぐために、セットアップおよび部品の取り扱いの際に従わなければならない注意事項を必ず守ってください。人間の指など、導電体からの静電気放電によって、システム ボードなどの静電気に弱いデバイスが損傷して、耐用年数が短くなることがあります。

静電気による損傷を防止するには、以下のことを守ってください。

- 運搬や保管の際は、静電気防止用のケースに入れ、手で直接触れることは避けます。
- 静電気に弱い部品は、静電気防止措置のなされている作業台に置くまでは、専用のケースにいれたままにしておきます。
- 部品をケースから取り出す前に、まずケースごとアースされている面に置きます。
- ピン、リード線、回路には触れないようにします。
- 静電気に弱い部品に触れなければならないときには、つねに適切なアースを行います。

## アースの方法

アースにはいくつかの方法があります。静電気に弱い部品を取り扱うときには、以下のうち1つ以上の方法でアースを行ってください。

- すでにアースされているコンピュータ本体にアース バンドをつなぎます。アース バンドは柔軟な帯状のもので、アース コード内の抵抗は、 $1M\Omega \pm 10\%$ です。アースを正しく行うために、アースバンドを肌に密着させてください。
- 立って作業する場合、かかとやつま先にアースバンドをつけます。導電性または静電気拡散性の床の場合、両足にアースバンドをつけます。
- 作業用具は導電性のものを使用します。
- 折りたたみ式の静電気防止マットがついた、携帯式の作業用具もあります。

上記のような用具が入手できないときは、HPの製品販売店またはHPのサービス窓口にお問い合わせください。

**注:** 静電気の詳細および製品のインストールの支援については、HPの製品販売店にお問い合わせください。

この付録では、UPSの物理、入力、および出力の各仕様を示します。また、バッテリーの仕様、バッテリーの推定稼働時間、UPS動作時の環境要件も示します。

## 物理仕様

表C-1: 物理仕様

寸法	幅	431.8mm
	高さ	88.9mm
	奥行*	464.8mm
重量		23kg

\*フロント ベゼルが取り付けられた場合を示します。

## 入力仕様

表C-2: 入力仕様

UPSモデル	商用電圧 周波数 (Hz)	デフォルト設定 定格電圧 (VAC)	設定可能 商用電圧 (VAC)	付属の 電源コード
R1500 XR	50/60	100	100 <sup>1</sup>	NEMA L5-20プラグ 付き取り外し不能 電源コード

**注:** <sup>1</sup> バッテリー動作時は110

装置を接続する前に、装置の定格がUPSの容量を超えていないかどうかをチェックし、UPSが過負荷にならないことを確認してください。接続する装置は、すべてのロード セグメントに均等に分散してください。各コンセントの定格を超えないようにしてください。シャットダウン時の優先順位に応じて装置を接続してください。

UPSが過負荷にならないことを確認したら、装置の電源コードをUPSの適切なコンセントに接続してください。

## 出力仕様

表C-3: 出力仕様

UPSモデル	定格容量 (VA)	定格電力 (W)	ロード セグメント#	出力ソケット
R1500 XR	1500	1340	1	3×5-15R
			2	3×5-15R

表C-4: 出力仕様

特性	コンフィギュレーション 設定 (VAC)	設定可能定格 出力電圧 (VAC)	バッテリー動作時の 設定可能定格出力電圧 (VAC)
電圧	100	100	100*
	110	110	110
	120	120	120
	127	127	120
	220	220	220
	230	230	230
	240	240	240
出力許容値	<b>電源</b>	<b>変動率</b>	
	商用電源 (定格範囲)	定格出力電圧の-10% ~ +6% (コンピュータ事務機器 製造事業者協会のガイドライン内)	
	バッテリー電源	定格出力電圧の±5% (バッテリー動作時は-10%)	
その他の特性	<b>特性</b>	<b>仕様</b>	
	オンライン効率	95%	
	電圧波形	正弦波、一般的なPFC負荷で5%THD	
	サージ抑制	高エネルギー6500Aピーク	
	ノイズ フィルタリング	正常および共通モード用のMOVおよびライン フィルタ	

## バッテリー仕様

表C-5: バッテリー仕様

特性	仕様
種類	密閉式鉛蓄電池、メンテナンスフリー
電圧	48Vバッテリー列電圧
充電	24時間で完全充電（推奨） デフォルト定格商用電圧、負荷なしの場合、約3時間以内で90%の容量

## 環境仕様

表C-6: 環境仕様

特性	仕様
動作温度	10 ~ 40 ULテスト25
非動作時温度	0 ~ 25
動作湿度	20 ~ 80%、相対湿度（結露なし）
非動作時湿度	5 ~ 95%相対湿度（結露なし） 38.7 最大湿球温度、 表面上の損傷なし
動作保証高度	海拔2000m以下
非動作時高度	海拔9144m以下
騒音	46dBA未満

## C

Cables A-3  
Canadian Notice (Avis Canadien) A-3  
China Taiwan Notice A-4  
Class A Equipment A-2、A-3  
Class B Equipment A-2、A-3

## E

European Union Notice A-3

## F

Federal Communications Commission  
Notice A-1

## H

HPのWebサイト viii

## L

LED  
トラブルシューティング 5-1  
LEDインジケータ 2-1、2-2  
☒ 2-1

## M

Modifications A-2

## N

NTP 「サージプロテクタ」を参照

## R

REPOポート 1-6、「リモートエマー  
ジェンシー パワー オフ ポート」を参  
照

## U

UPS 2-1、「UPS」を参照  
概要 1-1  
仕様 C-1  
設定 3-1  
操作 2-1

## あ

アースの方法 B-1  
アラーム 「アラーム音」を参照  
アラーム音  
消す 2-6  
トラブルシューティング 5-1  
配線チェック インジケータ 3-2  
安全に使用していただくために vii

## い

一般アラーム 2-1  
インストール  
UPS 2-1

## お

オプション、ハードウェア 1-5  
温度仕様 C-4  
オン ボタン 2-2

## か

概要  
UPS 1-1  
回路プロテクタ 1-2  
各国別勧告 A-1  
過電流保護 1-2  
過負荷LED 2-2



環境仕様 C-4

## き

規定準拠識別番号 A-1

規定に関するご注意 A-1

機能

REPOポート 1-6

UPS 1-1

パワー マネジメント ソフトウェア 1-5

## こ

交換

データ 1-1

バッテリー 4-2

コンピュータ、ホスト 1-1

## さ

サージプロテクタ 1-2

参考資料 viii

## し

システム停止 2-6

湿度仕様 C-4

充電

バッテリー 2-3、4-1

重量 C-1

出力仕様 C-3

仕様

環境 C-4

出力 C-3

入力 C-2

バッテリー C-4

物理 C-1

商用電源LED 2-2

## す

スタンバイ ボタン 2-2

スタンバイ モード 2-2、2-4

寸法 C-1

## せ

静電気対策 B-1

製品番号

ハードウェア オプション 1-5

設定

定格商用電圧 3-2

手順 3-3

パラメータ 3-2

ボタン 2-2

モード 2-2、3-2

設定モード オンLED 2-2

セルフテスト 2-5

## そ

騒音仕様 C-4

操作モード 2-2

ソフトウェア「パワー マネジメント ソフトウェア」を参照

## つ

通信ポート 1-1

注意事項 4-1

## て

定格商用電圧 3-3

設定 3-2

データ交換 1-1

テスト/アラーム リセット ボタン 2-2

電圧、設定 3-3

## と

動作モード 2-2、2-3

取り外し

フロントベゼル 3-1

## に

入力仕様 C-2

## は

ハードウェア オプション 1-5

廃棄

バッテリー 4-2

配線チェック インジケータ 2-1

アラーム音 3-2

バッテリー

交換 4-2

交換時期 4-2

充電 2-3、4-1

仕様 C-4

注意事項 4-1

手入れと保管 4-3


廃棄方法 4-2

保管 4-3

保証 4-3

バッテリー動作 2-1  
バッテリーの取り扱いについてのご注意 A-4  
パネル  
    フロント 1-3  
    リア 1-4  
パラメータ、設定 3-2  
パワー マネジメント ソフトウェア 1-5

## ふ

物理仕様 C-1  
不良バッテリー/ロー バッテリー 2-1  
フロント パネル 1-3  
フロント パネルの制御ボタン 2-1  
     2-1  
フロント ベゼル、取り外し 3-1

## へ

ベゼル、取り外し 3-1

## ほ

ポート、通信 1-1  
保護  
    過電流 1-2  
    サージ 1-2  
保証  
    バッテリーの事前予防 4-3  
保証高度仕様 C-4  
ホスト コンピュータ 1-1

## ま

マネジメント、UPS 1-5

## り

リア パネル 1-4  
リモート エマージェンシー パワー オフ  
    ポート 1-6